

Teaching Introductory Academic Writing

平成 17 年 6 月 22 日、ハワイ大学講師のヘザー・ダイヤモンド氏を招いて、英作文教授法に関する意見交換会を行った。

ダイヤモンド氏はアメリカのヒューストン大学やハワイ大学で約 20 年にわたり、主に一・二年生向けのライティング授業を教えてきた。両大学ともに英語を第一言語としない学生が多いところでもあり、英語教育 (TESL) 的なアプローチから英作文を教えた経験もある。

ダイヤモンド氏はハワイ大学の授業をもとに、自らの英作文教授法を披露した。氏の授業では 20 名の学生が一週間に三度 (一回あたり 50 分) 集う。TA はつかない。一学期間にさまざまなスタイルの書き方が教えられるが、その最大の特徴は以下の二点である。

まず、学生が高校時代まで徹底的に教えられてきた英作文の方法以外のものを教えることから始める。かれらが高校までに学んできた作文方法とは、具体的には「五段落法」と呼ばれるもので、最初の段落に主張が繰り広げられ、次にその主張を裏付ける証拠や議論が三点示され、最後に結論がある書き方である。入学したばかりの学生はこれ以外の書き方をまったく知らないことが多く、授業では他の方法で論文を書くことが強調される。

もう一点は、授業中を含めて、ピア・レビューが重視される点だ。学生を三名ほどのグループにわけ、お互いの文章を読ませて批評し合うことで作文能力を高めていく。学生たちはクラスメートの書いたものを読みながら、書くことの意味を考えていく。むしろ、学生が最初からそのようなことができるわけではないので、いかに建設的な批評を授業の前半に教えなければならない。

ダイヤモンド氏は自分の授業以外のシラバスやアメリカの大学で使用されている教科書も複数持参し、ライティング授業のここ数十年の歴史的変遷なども説明しながら、さまざまな可能性を示してくれた。

本研究会には教養学部英語部会教授で英文ライティング教科書 *First Moves* の著者であるポール・ロシター氏が出席し、ライティング授業の実践についてダイヤモンド氏と活発な意見交換を行った。